様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	九州医療スポーツ専門学校
設置者名	学校法人国際学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	柔道整復学科	夜・通信	59 単位	9 単位	
	スポーツ柔整学科	㊜・通信	59 単位	6 単位	
	鍼灸学科	夜・通信	57 単位	9 単位	
	スポーツ鍼灸学科	㊜・通信	57 単位	6 単位	
	理学療法学科	夜・通信	121 単位	9 単位	
	作業療法学科	夜・通信	124 単位	9 単位	
	看護学科	夜・通信	70 単位	9 単位	
	歯科衛生学科	夜・通信	75 単位	9 単位	
社会福祉専門課程	生涯スポーツトレーナー介護福祉学科	夜・通信	94 単位	6 単位	
文化・教養専門課程	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ・ｽﾎﾟｰﾂﾄﾚｰﾅｰ学科	㊜・通信	79 単位	4 単位	
	整体セラピスト学科	夜・通信	23 単位	3 単位	
	ホスピタリティコンシェルジュ学科	夜・通信	75 単位	6 単位	
	テクノｅスポーツ学科	夜・通信	37 単位	6 単位	
	競技スポーツ学科	夜・通信	24 単位	3 単位	

	生涯トータルビューティー学科	夜・通信	31 単位	3 単位	
（備考）					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページでの公表 https://www.kmsv.jp/publication/

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由） なし

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	九州医療スポーツ専門学校
設置者名	学校法人国際学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページでの公表 https://www.kmsv.jp/publication/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	有限会社	平成29年10月30日～令和3年5月31日	対外的な取引や情報収集･共有をおこなう
非常勤	大学院生	平成30年11月30日～令和3年5月31日	農学研究科生として、栄養や食文化、を研究し､地域貢献や地域活性を通して本学園のビジョンにつなげる役割を担っている
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	九州医療スポーツ専門学校
設置者名	学校法人国際学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） ・授業計画書（シラバス）の作成過程 学科会議にて協議した上で作成。 また、必要に応じて当該授業科目担当教員の意見を取り入れる。 なお、教育課程編成委員会を組織している学科については、同委員会による提言等を取り入れている。 ・授業計画書の作成・公表時期 事業年度の直前（概ね３月中下旬）に作成。 事業年度の開講前（オリエンテーション時）または開講時に公表。	
授業計画書の公表方法	学生に対する授業計画書（シラバス）の配付 本校ホームページ上での公表 https://www.kmsv.jp/publication/
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 出席状況、受講態度および課題の提出状況等によって学習意欲を把握するとともに、筆記試験または実技試験の得点をもって総合的に判断する。 なお、筆記試験については試験の実施に際してあらかじめ当該学科長によって試験の難易度、出題数等の確認を行って、より厳格かつ適正な試験の実施を図る。 また、実技試験については当該授業科目の担当教員以外の教員も審査員に加え、１名の学生に対して複数の教員が審査にあたり、より厳格かつ公平な試験の実施を図る。	

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） ・GPA 等の客観的な指標の具体的な内容（指標の算出方法など） 全ての授業科目について 100 点満点に換算し、当該年次において履修すべき授業科目それぞれについて平均得点を算出するとともに、当該年次において履修すべき授業科目全体の平均得点を算出する。 ・客観的な指標の適切な実施状況 上述した各授業科目の平均得点および当該年次において履修すべき授業科目全体の平均得点は、学科ごとに算出する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	本校ホームページ上での公表 https://www.kmsv.jp/publication/
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容 各授業科目の単位修得に必要となる出席要件および成績要件の双方を満たし、学科ごとに定める科目の単位を全て修得すること。 ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 卒業の認定に必要となる条件を満たしたことを、成績判定会議において審議する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学生に配布する学生便覧に掲載して公表 本校ホームページ上での公表 https://www.kmsv.jp/publication/

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	九州医療スポーツ専門学校
設置者名	学校法人国際学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページで公表 https://www.kmsv.jp/publication/
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

<table>
<tr><th colspan="2">分野</th><th>課程名</th><th colspan="2">学科名</th><th>専門士</th><th>高度専門士</th></tr>
<tr><td colspan="2">医療分野</td><td>医療専門課程</td><td colspan="2">柔道整復学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">2760 単位時間／108 単位</td><td>1290 単位時間/59 単位</td><td>570 単位時間/21 単位</td><td>180 単位時間/4 単位</td><td>なし</td><td>720 単位時間/24 単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">2760 単位時間／108 単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
330 人	176 人	0 人	12 人	22 人	34 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義、演習、実技および実習。

科学的思考の基盤・人間と生活、人体の構造と機能、疾病と傷害、柔道整復術の適応、保健医療福祉と柔道整復の理念、社会保障制度、基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・卒業の認定基準

各授業科目の単位修得に必要となる出席要件および成績要件の双方を満たし、学科で定める科目の単位を全て修得したことを成績判定会議において審議する。

・進級の認定基準

当該年次で履修すべき科目の単位が未修得であっても進級を認める。ただし、各年次に配分されている臨床実習に出席するためには、以下の実習出席要件を満たさなければならない。

【実習出席条件】

≪1 年次から 2 年次への進級時≫

2 年次の臨床実習 2 および 3 に出席するためには、1 年次の臨床実習 1 の単位を修得していること。

≪2 年次から 3 年次への進級時≫

3 年次の臨床実習 4 に出席するためには、2 年次の臨床実習 2 および 3 の単位を修得していること。

所属する学科の教育課程に定められている全ての科目の単位を修得し、卒業判定会議での議を経て卒業が認められた学生に対して卒業を認定とする。

学修支援等
（概要） 各クラス担任制を採用。 学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。 開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
61 人 （100%）	0 人 （　0%）	50 人 （　82%）	11 人 （　18%）
（主な就職、業界等） 柔道整復施術所、医療機関、介護保険施設　等			
（就職指導内容） キャリアサポートセンターによる就職指導、業界に関するセミナーの開催等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 柔道整復師免許（国家資格）、生涯スポーツトレーナー（民間資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
183 人	20 人	10.9%
（中途退学の主な理由） 成績不振、進路変更、経済的な事情　等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 補講の実施、個別面談または三者面談、カウンセラーによるカウンセリング		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療分野</td><td>医療専門課程</td><td colspan="2">スポーツ柔整学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年</td><td rowspan="2">夜</td><td rowspan="2">2760 単位時間／108 単位</td><td>1290 単位時間/59 単位</td><td>570 単位時間/21 単位</td><td>180 単位時間/4 単位</td><td>なし</td><td>720 単位時間/24 単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">2760 単位時間／108 単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
150 人	26 人	0 人	12 人	20 人	32 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義、演習、実技および実習。

科学的思考の基盤・人間と生活、人体の構造と機能、疾病と傷害、柔道整復術の適応、保健医療福祉と柔道整復の理念、社会保障制度、基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・卒業の認定基準

各授業科目の単位修得に必要となる出席要件および成績要件の双方を満たし、学科で定める科目の単位を全て修得したことを成績判定会議において審議する。

・進級の認定基準

当該年次で履修すべき科目の単位が未修得であっても進級を認める。ただし、各年次に配分されている臨床実習に出席するためには、以下の実習出席要件を満たさなければならない。

【実習出席条件】

≪1 年次から 2 年次への進級時≫

2 年次の臨床実習 2 および 3 に出席するためには、1 年次の臨床実習 1 の単位を修得していること。

≪2 年次から 3 年次への進級時≫

3 年次の臨床実習 4 に出席するためには、2 年次の臨床実習 2 および 3 の単位を修得していること。

所属する学科の教育課程に定められている全ての科目の単位を修得し、卒業判定会議での議を経て卒業が認められた学生に対して卒業を認定とする。

学修支援等
（概要） 各クラス担任制を採用。 学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。 開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25 人 （100%）	0 人 （　0%）	19 人 （76%）	6 人 （24%）
（主な就職、業界等） 柔道整復施術所、医療機関、介護保険施設　等			
（就職指導内容） キャリアサポートセンターによる就職指導、業界に関するセミナーの開催等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 柔道整復師免許（国家資格）、生涯スポーツトレーナー（民間資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	6 人	12.5%
（中途退学の主な理由） 成績不振、進路変更、経済的な事情　等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 補講の実施、個別面談または三者面談、カウンセラーによるカウンセリング		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療分野</td><td>医療専門課程</td><td colspan="2">鍼灸学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">2660 単位時間／113 単位</td><td>1640 単位時間/82 単位</td><td>240 単位時間/12 単位</td><td>45 単位時間/1 単位</td><td>なし</td><td>735 単位時間/18 単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">2660 単位時間／113 単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
180 人	124 人	1 人	12 人	5 人	17 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義、演習、実技および実習。

科学的思考の基盤・人間と生活、人体の構造と機能、疾病の成り立ちとその予防及び回復の促進、保健医療福祉とはり及びきゅうの理念、基礎はりきゅう学、臨床はりきゅう学、社会はりきゅう学、実習、総合領域。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

3 年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、在学できる残りの 3 年間の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27 人 （100%）	1 人 （　3.7%）	12 人 （　44.4%）	14 人 （　51.9%）
（主な就職、業界等） 鍼灸施術所、医療機関、介護保険施設、教育機関　等			
（就職指導内容） キャリアサポートセンターによる就職指導、業界に関するセミナーの開催等			
（主な学修成果（資格・検定等）） はり師免許（国家資格）、きゅう師免許（国家資格）、生涯スポーツトレーナー（民間資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116 人	12 人	10.3%
（中途退学の主な理由） 成績不振、進路変更、経済的な事情　等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療分野</td><td>医療専門課程</td><td colspan="2">スポーツ鍼灸学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年</td><td rowspan="2">夜</td><td rowspan="2">2660 単位時間／113 単位</td><td>1640 単位時間/82 単位</td><td>240 単位時間/12 単位</td><td>45 単位時間/1 単位</td><td>なし</td><td>735 単位時間/18 単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">2660 単位時間／113 単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90 人	50 人	0 人	12 人	2 人	14 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義、演習、実技および実習。

科学的思考の基盤・人間と生活、人体の構造と機能、疾病の成り立ちとその予防及び回復の促進、保健医療福祉とはり及びきゅうの理念、基礎はりきゅう学、臨床はりきゅう学、社会はりきゅう学、実習、総合領域。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

3 年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、在学できる残りの 3 年間の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22 人 （100%）	0 人 （　0%）	5 人 （22.7%）	17 人 （77.3%）
（主な就職、業界等） 鍼灸施術所、医療機関　フィットネスクラブ　等			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） はり師免許（国家資格）、きゅう師免許（国家資格）、生涯スポーツトレーナー（民間資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
69 人	7 人	10.1%
（中途退学の主な理由） 成績不振、進路変更、経済的な事情　等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療分野</td><td>医療専門課程</td><td colspan="2">理学療法学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">3140 単位時間／121
単位</td><td>1095 単位時間/55 単位</td><td>765 単位時間/31 単位</td><td>1280 単位時間/35 単位</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">3140 単位時間／121 単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人	93 人	0 人	6 人	16 人	22 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義、演習、実技および実習。

科学的思考の基盤・人間と生活、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーションの理念。基礎理学療法学、理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法、臨床実習。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

①当該年次で履修すべき科目の単位が未修得であっても進級を認める。ただし、各年次に配分されている臨床実習に出席するためには、以下の実習出席要件を満たさなければならない。

【実習出席条件】

≪1 年次から 2 年次への進級時≫

2 年次後期の臨床実習Ⅰに出席するためには、以下の基準を満たす事。

・2 年次前期末（臨床実習Ⅰ開始前）までに、「解剖学Ⅰ・Ⅱ」「運動学Ⅰ・Ⅱ」「生理学Ⅰ・Ⅱ」「理学療法評価法Ⅰ・Ⅱ」の科目すべてにおいて単位を修得していること。

≪2 年次から 3 年次への進級時≫

3 年次の臨床実習Ⅱ・Ⅲに出席するためには、以下の基準を満たす事。

基礎分野以外の科目で、1 年次・2 年次で履修すべき科目のすべてにおいて単位を修得していること。

②3 年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、在学できる残りの 3 年間の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等
（概要） 各クラス担任制を採用。 学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。 開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28 人 （100%）	0 人 （　0%）	28 人 （　100%）	0 （　0%）
（主な就職、業界等） 医療機関			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士免許（国家資格）、生涯スポーツトレーナー（民間資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91 人	8 人	8.8%
（中途退学の主な理由） 成績不振、進路変更、経済的な事情　等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療分野</td><td>医療専門課程</td><td colspan="2">作業療法学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">3165 単位時間／126 単位</td><td>1545 単位時間/75 単位</td><td>600 単位時間/26 単位</td><td>1020 単位時間/25 単位</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">3165 単位時間／126 単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人	27 人	0 人	6 人	7 人	13 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義、演習および実習。

科学的思考の基盤及び人間の生活、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病と障害の成り立ち及び回復の過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーションの理念、基礎作業療法学、作業療法評価学、作業治療学、地域作業療法学、臨床実習。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

①当該年次で履修すべき科目の単位が未修得であっても進級を認める。ただし、各年次に配分されている臨床実習に出席するためには、実習出席要件を満たさなければならない。

②3 年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、在学できる残りの 3 年間の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6 人 （100%）	0 人 （　0%）	6 人 （100%）	0 人 （　0%）
（主な就職、業界等） 医療機関			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 作業療法士免許（国家資格）、生涯スポーツトレーナー（民間検定）、メンタルヘルスマネジメント検定（民間検定）、福祉住環境コーディネーター検定（民間資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23 人	2 人	8.7%
（中途退学の主な理由） 成績不振、進路変更、経済的な事情　等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療分野</td><td>医療専門課程</td><td colspan="2">看護学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">3030 単位時間／97
単位</td><td>1815 単位時間/68 単位</td><td>180 単位時間/6 単位</td><td>1035 単位時間/23 単位</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">3030 単位時間／97 単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240 人	208 人	0 人	14 人	31 人	45 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義、演習および実習。

科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論、看護の統合と実践、臨床実習。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

①当該年次で履修すべき科目の単位が未修得であっても進級を認める。ただし、各年次に配分されている臨床実習に出席するためには、実習出席要件を満たさなければならない。

②3 年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、在学できる残りの 3 年間の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
55 人 （100%）	0 人 （　0%）	47 人 （　85.5%）	8 人 （　14.5%）
（主な就職、業界等） 医療機関			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 看護師免許（国家資格）、生涯スポーツトレーナー（民間資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
211 人	12 人	5.7%
（中途退学の主な理由） 成績不振、進路変更、経済的な事情　等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療分野</td><td>医療専門課程</td><td colspan="2">歯科衛生学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">3010 単位時間／117
単位</td><td>1510 単位
時間/77
単位</td><td>600 単位
時間/20
単位</td><td>900 単位
時間/20
単位</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">3010 単位時間／117 単位</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td>120 人</td><td>95 人</td><td>0 人</td><td>4 人</td><td>30 人</td><td>34 人</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義、演習、実習および実技。

科学的思考の基盤、人間と生活、人体の構造と機能、歯・口腔の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み、歯科衛生士概論、臨床歯科医学、歯科予防処置論、歯科保健指導論、歯科診療補助論、臨地・臨床実習、総括、選択必修分野。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

①当該年次で履修すべき科目の単位が未修得であっても進級を認める。ただし、各年次に配分されている臨床実習に出席するためには、実習出席要件を満たさなければならない。

②3 年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、在学できる残りの 3 年間の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17 人 （100%）	0 人 （　0%）	16 人 （　94.1%）	1 人 （　5.9%）
（主な就職、業界等） 歯科医院			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 歯科衛生士免許（国家資格）、生涯スポーツトレーナー（民間資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
82 人	4 人	4.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">教育・社会福祉分野</td><td>社会福祉専門課程</td><td colspan="2">生涯スポーツトレーナー介護福祉学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">1896 単位時間／100 単位</td><td>870 単位時間/58 単位</td><td>570 単位時間/27 単位</td><td>456 単位時間/15 単位</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">1896 単位時間／100 単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90 人	49 人	48 人	7 人	0 人	7 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義および演習。

人間と社会、介護の分野、こころと体の仕組み、医療的ケア。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション時）または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

①当該年次で履修すべき科目の単位が未修得であっても進級を認める。

②2 年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、2 年間の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談、日常生活指導。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19 人 （100%）	0 人 （　0%）	19 人 （　100%）	0 人 （　0%）
（主な就職、業界等） 介護保険施設			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 介護福祉士免許（国家資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42 人	2 人	4.8%
（中途退学の主な理由） 成績不振、経済的理由　等。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><th colspan="2">分野</th><th>課程名</th><th colspan="2">学科名</th><th>専門士</th><th>高度専門士</th></tr>
<tr><td colspan="2">文化教養分野</td><td>文化・教養専門課程</td><td colspan="2">ｱｽﾚﾃｨｯｸﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ・ｽﾎﾟｰﾂﾄﾚｰﾅｰ学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">夜</td><td rowspan="2">1710 単位時間／88 単位</td><td>1050 単位時間/66 単位</td><td>なし</td><td>660 単位時間/22 単位</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">1710 単位時間／88 単位</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>生徒総定員数</th><th>生徒実員</th><th>うち留学生数</th><th>専任教員数</th><th>兼任教員数</th><th>総教員数</th></tr>
<tr><td>60 人</td><td>47 人</td><td>0 人</td><td>5 人</td><td>19 人</td><td>24 人</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義および実習。

基礎スポーツ科学、基礎スポーツ医学、スポーツ科学、スポーツ医学、応用スポーツ科学、応用スポーツ医学、スポーツ現場実習。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

①当該年次で履修すべき科目の単位が未修得であっても進級を認める。

②2 年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、在学できる残りの 2 年間の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 （100%）	0 人 （　0%）	9 人 （　90%）	1 人 （　10%）
（主な就職、業界等） スポーツジム、健康増進施設、医療機関　等			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） アスレティックトレーナー（民間資格）、生涯スポーツトレーナー（民間資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	4 人	12.1%
（中途退学の主な理由） 進路変更、成績不振、経済的理由　等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化教養分野</td><td>文化・教養専門課程</td><td colspan="2">整体セラピスト学科</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">800単位時間／41単位</td><td>512単位時間/32単位</td><td>なし</td><td>288単位時間/9単位</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">800単位時間／41単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
30人	17人	0人	3人	7人	10人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容
　講義および実習。
　人体の構造と機能、基礎整体学、応用整体学、実習。

・年間の授業計画
　学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

①　講義科目ごとに2/3以上の出席率及び実習については4/5以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の4段階で評価する。

②　期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

　1年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、在学できる残りの1年間の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等

（概要）

　各クラス担任制を採用。
　学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。
　開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16 人 （100%）	0 人 （　0%）	1 人 （　6.3%）	15 人 （　93.8%）
（主な就職、業界等） 鍼灸整骨院			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 整体セラピスト（民間資格）、キネシオテーピング・プラクティショナー療法家（民間資格）、生涯スポーツトレーナー（民間資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21 人	5 人	23.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更、成績不振、経済的理由　等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化教養分野</td><td>文化・教養専門課程</td><td colspan="2">ホスピタリティ・コンシェルジュ学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">2195 単位時間／146 単位</td><td>1955 単位時間/130 単位</td><td>240 単位時間/16 単位</td><td>なし</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">2195 単位時間／146 単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80 人	44 人	44 人	3 人	8 人	11 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法

講義および演習。

・授業内容

基礎必修科目（ホスピタリティ学、ホテル学入門、フロント・客室サービス概論、マネジメント論、インバウンド概論、食文化論、日本旅館サービス論、企業演習、など全 36 授業科目）

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション時）または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

①当該年次で履修すべき科目の単位が未修得であっても進級を認める。

②2 年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、在学の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談、日常生活指導。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 （100%）	0 人 （　0%）	15 人 （　100%）	0 人 （　0%）
（主な就職、業界等） ホテル事業、宿泊施設　等			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） JLPT 日本語能力試験（民間検定）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
54 人	2 人	3.7%
（中途退学の主な理由） なし。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化教養分野</td><td>文化・教養専門課程</td><td colspan="2">テクノｅスポーツ学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">1710 単位時間／98 単位</td><td>780 単位時間/50 単位</td><td>690 単位時間/40 単位</td><td>240 単位時間/8 単位</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">1710 単位時間／98 単位</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">60 人</td><td>0 人</td><td>0 人</td><td>3 人</td><td>4 人</td><td>7 人</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義・演習および実習。

一般教養、IT 基礎スキル、プログラム基礎、ドローン実習など。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

概要）

① 講義科目ごとに 2/3 以上の出席率及び実習については 4/5 以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の 4 段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

①当該年次で履修すべき科目の単位が未修得であっても進級を認める。

②2 年間の修業年限を越えて単位未修得の科目がある場合には、在学できる残りの 2 年間の期間内にその単位の修得を行うこと。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談をはじめ保護者を交えた三者面談を実施して、包括的な支援を行う。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 （　0%）	0 人 （　0%）	0 人 （　0%）

（主な就職、業界等）

（就職指導内容）
就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等

（主な学修成果（資格・検定等））
ドローン操縦士初級、中級（民間資格）
IT パスポート（国家資格）　等

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%

（中途退学の主な理由）

（中退防止・中退者支援のための取組）
担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化教養分野</td><td>文化・教養専門課程</td><td colspan="2">競技スポーツ学科</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">800単位時間／36単位</td><td>320単位時間/20単位</td><td>32単位時間/2単位</td><td>なし</td><td>なし</td><td>448単位時間/14単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">800単位時間／36単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
30人	0人	0人	3人	6人	9人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義・演習および実習。

ビジネススキル、コンディショニング学、スポーツ実技など。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに2/3以上の出席率及び実習については4/5以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の4段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・卒業の認定基準

各授業科目の単位修得に必要となる出席要件および成績要件の双方を満たし、学科で定める科目の単位を全て修得したことを成績判定会議において審議する。

・進級の認定基準

修業年限が1年のため、該当しない。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談、日常生活指導。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (　0%)	0 人 (　0%)	0 人 (　0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 公認Ｄ級コーチ、Ｃ級コーチ、SAQ トレーニング等			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td colspan="2">高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化教養分野</td><td>文化・教養専門課程</td><td colspan="2">生涯トータルビューティ学科</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1年</td><td rowspan="2">夜</td><td rowspan="2">800単位時間／45単位</td><td>448単位時間/28単位</td><td>192単位時間/12単位</td><td>なし</td><td>なし</td><td>160単位時間/5単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">800単位時間／45単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
30人	0人	0人	3人	6人	9人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法及び内容

講義・演習および実技。

エステティック概論、解剖学、生理学、アロマテラピーなど。

・年間の授業計画

学科会議の協議を経て作成し、事業年度の開講前（オリエンテーション）時または開講時に公表。

成績評価の基準・方法

（概要）

① 講義科目ごとに2/3以上の出席率及び実習については4/5以上の出席率の基準を満たしたものに定期試験を課し、定期試験や実習の成果や履修状況を総合的に勘案して、「優」「良」「可」「不可」の4段階で評価する。

② 期末試験で「不可」となった場合は再試験を実施する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・卒業の認定基準

各授業科目の単位修得に必要となる出席要件および成績要件の双方を満たし、学科で定める科目の単位を全て修得したことを成績判定会議において審議する。

・進級の認定基準

修業年限が1年のため、該当しない。

学修支援等

（概要）

各クラス担任制を採用。

学生個別面談、日常生活指導。

開設授業以外に、成績不振者を対象とした補講や、希望者を対象とした個別学習指導を実施。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (　0%)	0 人 (　0%)	0 人 (　0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 就職説明会の開催、キャリアサポートセンターによる就職支援　等			
（主な学修成果（資格・検定等）） ヒプノセラピー検定、リフレクソロジスト、アロマテラピーなど			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状（H31.4.1～R2.3.7）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任教員による個別面談、保護者を交えた三者面談など。		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名		入学金	授業料（年間）	その他	備考（任意記載事項）
柔道整復学科		800,000 円	1,160,000 円	180,000 円	その他の費用は、教材費、校友会、スポーツ振興協賛金
スポーツ柔整学科		800,000 円	1,000,000 円	180,000 円	その他の費用は、教材費、校友会、スポーツ振興協賛金
鍼灸学科		800,000 円	1,000,000 円	150,000 円	その他の費用は、教材費、校友会、スポーツ振興協賛金
スポーツ鍼灸学科		800,000 円	900,000 円	200,000 円	その他の費用は、教材費、校友会、スポーツ振興協賛金
理学療法学科		500,000 円	1,200,000 円	210,000 円	その他の費用は、教材費、校友会、スポーツ振興協賛金
作業療法学科		500,000 円	1,200,000 円	200,000 円	その他の費用は、教材費、校友会、スポーツ振興協賛金
看護学科		300,000 円	700,000 円	420,000 円	その他の費用は、教材費、実習費、校友会、スポーツ振興協賛金
歯科衛生学科		300,000 円	580,000 円	400,000 円	その他の費用は、教材費、実習費、校友会、スポーツ振興協賛金
生涯スポーツトレーナー介護福祉学科		200,000 円	840,000 円	190,000 円	その他の費用は、教材費、実習費、校友会、スポーツ振興協賛金
アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科		200,000 円	900,000 円	310,000 円	その他の費用は、教材費、実習費、校友会、スポーツ振興協賛金
整体セラピスト学科		200,000 円	780,000 円	140,000 円	その他の費用は、教材費、校友会、スポーツ振興協賛金
ホスピタリティコンシェルジュ学科		100,000 円	650,000 円		
日本語学科	（2 年）	80,000 円	600,000 円		
	（1.5 年）	80,000 円	600,000 円		
	（1 年）	80,000 円	600,000 円		
テクノｅスポーツ学科		300,000 円	800,000 円	410,000 円	その他の費用は、教材費、実習費、校友会、スポーツ振興協賛金
競技スポーツ学科		300,000 円	700,000 円		その他の費用は、教材費、実習費、校友会、スポーツ振興協賛金
生涯トータルビューティー学科		300,000 円	700,000 円		その他の費用は、教材費、実習費、校友会、スポーツ振興協賛金
修学支援（任意記載事項）					

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） ホームページに掲載 https://www.kmsv.jp/publication/
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
学校関係者評価を推進するために、学則第 30 条の（７）および細則第 76 条に規定した「学校関係者評価委員会」を設置した。この委員会は、関係団体役職員 ・ 高等学校の校長 ・ 同窓会役員の学外関係者のみで組織し、学内組織である「自己点検 ・ 自己評価委員会」から出された点検および評価結果をもとにさまざまな方面から検討 ・ 協議することを責務とする。本校は、学校関係者評価委員会からの提言等をもとに、より良い学校を訴求していく。 【主な評価項目】 （１）教育理念・目標 →　理念 ・ 目的 ・ 育成人材像、特色、将来構想 （２）学校運営 →　運営方針、事業計画、運営組織、処遇、意思決定、情報システム （３）教育活動 →　業界ニーズ、到達レベル、カリキュラム、評価体制、評価基準、指導体制 （４）学修成果 →　就職率、資格取得率、退学率、社会的活動 （５）学生支援 →　就職 ・ 進学指導体制、相談体制、経済的支援体制、生活環境、保護者連携他 （６）教育環境 →　施設 ・ 設備、学外実習等、防災体制 （７）学生の受入れ募集　→　学生募集活動、入学選考基準、学納金 （８）財務　→　財務基盤、予算 ・ 収支計画、会計監査、財務情報公開 （９）法令等の遵守　→　設置基準、個人情報、自己評価と公開 （１０）社会貢献・地域貢献　→　学校教育資源の活用、ボランティア活動 【評価結果の活用方法】 学校関係者評価委員会から提起された意見を元に協議し、これに対する対応を講じるように努める。 委員会から提起された意見および意見に対する対応については本校ホームページ上で公開する。 【改善方策の実施時期】 原則として、委員会から意見を提起された翌年度から対応を講じる。 提起された意見に対する対応が容易なものについては速やかに対応する。 【学校関係者評価に関する（学内）責任者】 味村
学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
公立大学法人九州歯科大学	自：令和元年 4 月 1 日 至：令和 3 年 3 月 31 日	関係団体役職
福岡県立若松商業高等学校	自：令和元年 4 月 1 日 至：令和 3 年 3 月 31 日	高等学校校長
九州医療スポーツ専門学校同窓会	自：令和元年 4 月 1 日 至：令和 3 年 3 月 31 日	同窓会会長

学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） ・学校関係者評価委員会報告書（本校ホームページに掲載） https://www.kmsv.jp/publication/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） ・本校ホームページ https://www.kmsv.jp/